

令和 5 年度幼保小連携事業の実施状況について

幼稚園・認定こども園・保育園(以下、「保育所等」という)と小学校では、子どもたちが保育所等から小学校の生活へと円滑に移行できることを目指し、さまざまな取り組みを行っています。

本事業は保育所等と小学校の指導者同士の交流連携を深めること、また幼児期の子どもの発達段階を理解し、育ちと学びが連続することの重要性を共有する機会の創出として、市保育こども園課と学校教育課が連携して毎年実施しているものです。

(1) 相互職場体験研修

保育所等と小学校を 20 グループに分け、グループ内で相互に職場体験を実施。
また、グループ以外で卒園児のいる小学校で実習した園も 6 園あった。

市内施設		体験研修実施数	R5 年度実施率	R4 年度実施状況
グループ	20 グループ	19 グループ	95.0 %	17 グループ (85.0%)
保育所等	34 園	24 園	70.6 %	19 園 (55.9%)
小学校	21 校	17 校	81.0 %	15 校 (71.4%)

保育所等の職員が 小学校で 体験研修

《 目的 》

具体的な行動から、児童がつまずきとする部分に気づき、連続性のある育ちという観点から、就学に向けて教育・保育に生かしていく。

《 参加者の感想 》 ※報告書より抜粋

- ・ 一人ひとりに発言の機会が回るように配慮することで自信の無い子も周りから認められる環境となるため、そういった配慮の仕方も勉強になった。
- ・ 子ども達が自分で「分からない」「教えて欲しい」ということをいえていた。そういったことを言葉に出来る力は大切だと感じたため、園でも習得できるよう伝えていきたい。
- ・ 授業をずっと集中することは難しいが、話し合いや発表など様々な形式で進めることで、子ども達が楽しみながら授業に取り組んでいた。
- ・ 学習に入る前に「めあて」を決めていた。園でも年齢に合わせて子どもたちと一緒に「めあて」を決め、活動に取り組んでいきたいと思った。

小学校職員が 保育所等で 体験研修

《 目的 》

子どもの発達段階を把握し、その指導の仕方を体験することで、子どもの学びと育ちの連続性を確保していく。

《 参加者の感想 》 ※報告書より抜粋

- ・ 子ども達が自分で気づいて行動するのを焦らず見守っていた。そのような関わり方を自分も心掛けたいと思った。
- ・ 登園した際に機嫌が悪かったり感情が乱れたりした時に、しっかり寄り添い前向きな気持ちになるよう声掛けし気持ちを立て直しているところが印象的だった。
- ・ 「おかず」のことを「ごちそう」など、小学校では使わないような言葉を 1 年生がなぜ使っているのか分かった。そういった言葉を理解した上で新しい言葉を教えていきたい。

(2) 指導者研修会

子どもの育ちと学びに関わる課題を共有して、それぞれの実践に活かす目的で実施。

市内施設		研修会参加数	R5 年度参加率	R4 年度参加状況
保育所等	34 園	32 園	94.1 %	31 園 (91.1%)
小学校	21 校	13 校	61.9 %	16 校 (76.1%)

日 時：令和5年8月2日（水）14：30～16：30

場 所：酒田市総合文化センター410・411号室

内 容：① 講話／「保幼小の接続期における教育の充実」

山形県家庭教育アドバイザー 齋藤雅志 氏

② グループワーク

次の視点で情報交換と情報共有を行った。

- ✧ 保育園で頑張っていること
- ✧ 小学校でつなげてほしいこと
- ✧ 小学校側で、入学した子に配慮していること
- ✧ お互いに聞いてみたいこと
- ✧ 小学校入学に当たって園児が不安に思っていること

■令和6年度事業実施

(1) 相互職場体験研修

(2) 指導者研修会

実施期日：8月7日(水)

講 師：岩本諒子氏

(酒田市教育相談室相談員 元酒田市立第二中学校長)